

プロトコル・オブ・ユフォーティリティ

PRO+OCOL OF HUMANITY



長谷敏司×大橋可也&ダンサーズ

SATOSHI HASE X KAKUYA

二〇一六

10.28-30, 11.01

江東区木場 アースプラスギャラリー

OHASHI AND DANCERS

PROTOCOL OF HUMANITY

長谷敏司×大橋可也&ダンサーズ
プロトコル・オブ・ヒューマニティ

二〇一六
10.28—30, 11.01
EARTH+GALLERY

長谷敏司書き下ろし

本プロジェクトのための新作小説を特別装丁版にて限定販売。

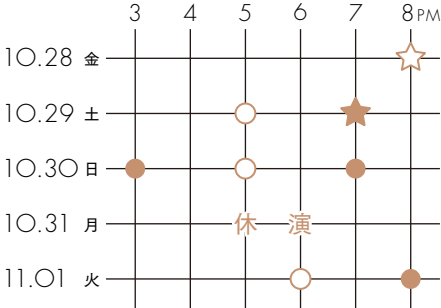
チケット 2016.9.30発売
一般 3,000円
U29 (29歳以下) 2,500円
2回券 (要日時指定) 4,000円
当日 3,500円

※ドリンク代500円が必要になります。
dancehardcore.com / peatix.com

ヒューマノイドロボットが街なかにあふれ、人工知能がつぶやき続ける。
人間の振る舞いが人間でないものによっておこなわれる世界で、**テキストと身体**から、人間をかたちづくる**プロトコル**(手続き)を探る。

日本コンテンポラリーダンスの最前衛を走り続ける大橋可也&ダンサーズと日本SF大賞受賞作家・長谷敏司によるプロジェクト「プロトコル・オブ・ヒューマニティ」。長谷敏司が書き下ろした新作小説から振付をおこなったダンス作品を上演します。

出演 皆木正純 平多理恵子 山本晴歌 伊藤雅子 大熊聡美
吉田圭 田端春花 大橋悠太 ヒューマノイドロボット



○Layer 1 ●Layer 2 開場は開演の30分前
終演後トークあり ☆ゲスト 佐々木敦 ★ゲスト 藤田直哉
Layer 1 / Layer 2の異なる二つの作品を上演します。それぞれの出演者はウェブ上にて発表。各回30名限定。



長谷敏司

1974年生まれ、SF小説家。2009年、仮想人格と科学者との交流を描いた『あなたのための物語』で日本SF大賞ノミネート。2012年、近未来における「ヒト」と「モノ」のボーイ・ミーツ・ガールを描いた『BEATLESS』で日本SF大賞ノミネート。2015年、短編集『My Humanity』で日本SF大賞受賞。人工知能学会倫理委員会のメンバーでもある。

大橋可也&ダンサーズ

1999年、結成。土方巽直系の舞踏振付法を基に現代社会における身体の在り方を問うダンスカンパニー。代表作に、秋葉原連続殺傷事件に想を得た『帝国、エアリアル』(2008年)、飛浩隆の長編小説を題材にした『グラン・ヴァカンス』(2013年)。振付家の大橋可也はソフトウェアのエンジニアとしても活動し、ヒューマノイドロボットのアプリケーション開発も手掛ける。

会場 アースプラスギャラリー

江東区木場3-18-17 | earth-plus.net
木場駅③出口徒歩6分、門前仲町駅①出口徒歩10分



長谷敏司×大橋可也&ダンサーズ

にされていない。いや、それどころか、その片鱗さえも、少なくとも私は、まだ知らない。だが、これだけは言える。今回の舞台は、大橋可也のこれまでの作品以上に、**ヒトによってヒューマニティを厳しく問い直す、ダンサーによってダンスを激しく思考する、**そんなものになるだろう。プロトコルとは明らかに、コレオグラフィの別名でもあるだろうからだ。
佐々木敦(批評家)

大橋可也&ダンサーズは「ダンス」および「ダンサー」という概念の大前提としての「人間」および「人間性」を積極的に狙い上げ続けてきた、稀有なダンスカンパニーである。**人間とは何なのか？ 人間性とは如何なるものか？** こう考えるなら、彼らが長谷敏司とのコラボレーションに向かったことには、或る強い論理的必然性を感じられる。小説家長谷もまた、一貫して「人間性」の再計測と「人間」の境界画定をテーマにしてきたからだ。現時点で、このプロジェクトの全貌は明らかに

振付・構成・演出：大橋可也 原作：長谷敏司 音楽：涌井智仁

照明：筆谷亮也 衣装：るう(ROCCA WORKS) 舞台監督：原口佳子(モリブデン) 広報：岩崎阿沙子(一般社団法人ノマドプロダクション)
プロジェクトメンバー：長島確、齋藤俊太、西村恵子、松下祐介、直野廉、直井理恵、山口直希、加藤雄大、koya、坂上翔子、野井柁絵、古郡稔、横山八枝子 グラフィックデザイン：石塚俊 イラストレーション：hakke 主催：一般社団法人大橋可也&ダンサーズ
共催：EARTH+GALLERY 助成：芸術文化振興基金 協力：公益財団法人セゾン文化財団、株式会社さきわコーポレーション、株式会社ジェネフィア